

かゑらじと かねて思へハ 梓弓  
なき数に入る 名をぞとどむる  
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第93号

令和1年8月6日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号  
四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

歴代皇統に加えられたのは大正15年10月

## 即位の日が特定されず、式典史料もない長慶天皇

— 衰退した吉野朝皇室の財政難を反映か —

### ● 生涯はほぼ不明で、不遇な天皇 ●

7月は、吉野朝（南朝）3代天皇、長慶天皇について学びました。しかし、以下に記載の通り、その実像は見えず、極めて不遇な天皇と云うのが、その結論でした。

- ① 即位の日が特定されていない。
- ② 即位の式典に関する史料が残っていない。
- ③ 結果、過去、即位説と非即位説が主張されてきた。
- ④ 即位後の行在所も転々とし、明らかにされていない。
- ⑤ 後龜山天皇への譲位の日も推定に留まる。
- ⑥ 譲位後、上皇として院政を敷いたと考えられるが、その実態は明らかではない。
- ⑦ 譲位後、後龜山天皇の綸旨、そして長慶上皇の院宣が残存しており、天皇兄弟の不和によって吉野朝の命令系統が分裂していた反映か。
- ⑧ 「耕雲千首」古写本の発見により、正式に、歴代皇統に加えられたのは、大正15年10月21日になってからの事である。背景に八代国治博士の研究があった。  
※耕雲千首／武田祐吉（国学者）によって発見された。  
この奥書に、「仙洞並当今」すなわち、天皇と上皇が元中6年（1389）に併存していたことが明らかとなり、八代の長慶上皇説を補強することとなった。
- ⑨ 崩御の場所が明らかになっていない。丹生川の長慶御陵は有力候補地の一つであったが、昭和19年2月11日、京都嵯峨の慶寿院の跡地が、長慶天皇陵＝角倉陵として決定された。

### ● 伝存する長慶天皇唯一の筆跡 ●

長慶天皇に関する書籍や資料が少ない中で、村田正志が日本歴史新書「南北朝論」の南朝衰微に関して記した長慶天皇に関する件を見てみましょう。

＊長慶天皇 1343～1394

1368（正平23）住吉行宮で即位したと推定されるが、確

かな史料は残っていない。この年12月に吉野に移る。

1369（正平24）4月、金剛寺に移る。この頃、楠正儀、北朝に降る。長慶天皇は主戦論で、楠正儀は和睦論。

1373（文中2）8月10日、正儀、細川氏清、赤松範資らと金剛寺を襲撃。この後、長慶天皇、吉野に移るも、いよいよ勢力を失って、山深く籠り、行在所もはっきりせず。

1379（天授5）6月、長慶天皇、大和の栄山寺（五條市）に行宮を置く。

1381（弘和1）11月18日、金剛寺等に病氣平癒の祈祷を命じている。

1382（弘和2）、征西将軍宮良成親王に勅書を送る。

1383（弘和3）11月～1384（元中1）9月9日の間に、譲位か。出家後の法号は覚理と名乗り、院政を敷いたと云われる。しかし、後醍醐天皇は幕府を認めず、院政も行わず、摂関政治も行わない。仮に、長慶天皇が院政を行ったとすれば、大きな変化といえる。

1385（元中2）9月10日、宸筆の願い文を高野山金剛峰寺に納めている。この願い文は、伝存する長慶天皇の唯一

敬白

発願事

右今度之雌雄思ひの如くんば、  
殊に奉養の誠を致すべきの状件の如し。

元中二季九月十日 太上天皇寛成

の筆跡とされる。

この願い文の意は、今度の合戦に思いの通りの勝利をおさめえたならば、特別に金剛峰寺に報謝を致したい、とのこと。八代博士は、これは必ず足利氏との合戦に相違ないと解しているが、この当時南北両朝の間にさような戦争は見当たらない。また一方には、これは南北の合戦を指すのではなく、長慶天皇と後龜山天皇との争いで、足利氏と和

